

# みみタロウ

日本語版

94号 2012年6月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」  
大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

Tel/Fax : 077-523-5646

E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : http://www.s-i-a.or.jp

## 日本の技術を祖国へ

今回みみタロウは、インドから来られているパラニ・スンダラムさん宅を訪問し、奥様のアニタさんとジャンティちゃんと一緒に、インドのこと、日本での生活やお仕事のことについてお聞きしました。



南インドのタミルナドゥ州の出身です。4年前にインドの会社から、滋賀県の環境総合サービスの専門会社「株式会社日吉」(近江八幡市)に派遣され、

水質や土壌、ダイオキシンなどの環境化学分析をしています。インドでは、第二次世界大戦の敗戦を乗り越え、経済大国になった日本に学ぶという機運があり、学校で子供達は日本について教科書で学びます。また、広島の実験場下日には、皆で黙祷をして日本の話を聞いたりします。それで、私も子供のころから日本語を学んでいつか日本に行ってみたい、という漠然とした夢がありました。大学では生化学を専攻しましたが、当時、専攻を活かす仕事が無かったので、コンピュータ関連の会社で働いていたところ、同僚が日本語を勉強していたことから自分のかつての夢を思い出し、日本語を勉強することにしました。そしてもっと日本語を勉強したいと思って、日本企業をソフト面でサポートする会社に入り翻訳や通訳等をしていたところ、「日吉」から化学のわかる人を派遣してほしい、という依頼があり、来日することになりました。

現在、インドでは近年の急激な工業化のため、環境汚染が大きな問題となっています。特に水質の汚染は深刻で、都市部への人口集中や工業化による水質汚染に水処理の整備が伴っておらず、このために毎日数人の子供が死亡するという悲しい現実があります。多くの日本の企業もインドに進出しており、特に私の出身地であるタミルナドゥ州では様々な工業化のプロジェクトが展開しています。私が働く「日吉」も昨年、そこに現地法人を設立して、市場調査をしているところですが、是非、私も日本の技術を学んで、将来、インドの環境分野の改良のために役立てて人の命を救うことができたら、と願っています。また、日本の技術を活かすには、単に技術だけでなく、日本特有の「ホウレンソウ」(報告、連絡、相談)や「5S」(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)といった企業管理システムの支えが大切ですので、企業文化も含めて現地との橋渡しができればと考えています。

日本に来て、特にカルチャーショックはありませんでしたが、インドと日本は随分違いますよ。まず気候。日本の寒さに慣れるのに少しかかりました。インドでは平均35度で、冬、22度でも皆、セーターを着て寒がっています。食べ物も宗教の関係上、肉を食べていい日が決まっています。普段は野菜や豆料理が中心で、生ものは食べません。また、社会生活も随分違います。日本では、核家族が多く近所付き合いも少ないですが、インドでは親戚や地域の強い絆の中で暮らしています。カーブ制もあって、結婚も9割の人が親の決める見合い結婚。双方の条件等が合うと、相手女性の家に親族一同で出向いて決めるんです。本人同士が直接話せるのは、婚約が決まってから。そして結婚すると、普通親の家に同居します。私たちもそのようにして結婚したんですよ。言葉は、私たちは、地元のタミル語と英語と国語であるヒンドゥー語の3言語を話します。州ごとに言葉が異なるので、テレビのチャンネルも、海外のチャンネルも含め、様々な言葉で100チャンネルほどあり、子供は小さい頃から英語を勉強します。文化が地域で多様なインドでは「村に行けば村の人のように暮らしましょう」ということわざがありますが、それは日本での暮らしでも同じ。まず、言葉が大切で、わからなければ、買い物にも子育てにも病院に行くにも困ります。ですから、私たちは家族で、安土の日本語教室に通っています。日本語能力試験にもチャレンジしていて、一級にはこれまで3回挑戦。また挑戦です。そして日本語がマスターできたら、今度は、排水処理や分析技能士などの環境関連の資格を取っていきたいと思っています。インドで勉強していた日本と、実際に、こうして直接日本語を使って日本の社会で生活して知った日本とでは、全く異なるものでした。この貴重な人生の体験を祖国に大切に持ち帰りたい。そして休日には、夫婦で日本語教室を自宅で開き、日本語や日本のことを近所の子供達に教えるのが、私たちの夢です。

アニタさん: 日本の人たちには、本当に優しくしてもらっています。他のお母さんや子供と友達になりたいくて、地域の母の集いに娘と参加しています。また、保育園で子供達と遊んだり、インドについて紹介したりしたことがあったので、道を歩いていると、子供達やいろんな人から声をかけてもらい、そんな時、とても嬉しいんですよ。